



連載企画

自動車リサイクル業界を担うホープ(14)

名前: 竹田 拓登 (たけだ たくと) (23歳)

所属: 桂木産業株式会社 (大阪府堺市)

担当: 解体部門

特技: クルマやバイクの修理・カスタム

MBTI: 運動家型(明るく社交的で、創造力と直感性に優れ、自信と行動力を持って前向きに挑戦し、人を惹きつける魅力がある)

— 仕事で誰にも負けない部分

周りをよく見て、柔軟に行動できること

— この業界の魅力を一言で

色々なクルマの部品や構造を知られる

— 将来の業界への期待

パーツを再利用することで、資源の浪費を抑え、地球環境に貢献すること

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。

INDEX

【連載企画】自動車リサイクル業界を担うホープ/巻頭言 —— P.1

—連載—自動車リサイクル業界の転換点を生き残る(3) —— P.2

2025年度定時社員総会のお知らせ/2025年度自動車リサイクル士講習会案内 —— P.3

共同出荷事業と企業紹介 —— P.4

4月新車販売・使用済自動車発生台数/中古車輸出に係る返還台数 —— P.5

鉄スクラップ最新情報 —— P.6

行事予定・お知らせ/編集後記 —— P.7

巻頭言

広報部会

木村 香奈子

5月に入り、いくつかの総会に出席しました。そこで感じたのは、各総会において雰囲気が大きく異なることです。ある総会では緊張感が漂い、どこか重苦しさを感じる場面がありました。一方で、別の総会では参加者が活気に満ち、前向きなエネルギーが広がっていました。こうした違いを生み出しているのは、やはりリーダーの存在です。会長や理事長をはじめとするリーダーたちの影響力が、団体の雰囲気や活力を大きく左右していることを実感しました。特に、継続的な学びに取り組んできた団体は、確実に発展しています。また、ある団体では20年前より意識的に若手を育成し、その成果が今、団体の活性化に繋がっていることが印象的でした。リーダーシップと継続的な学びの重要性を改めて認識しました。会社においても社長が会社の雰囲気を作っていることを再確認しました。

02

—連載—

自動車リサイクル業界の転換点を生き残る(3)

解体業界の変化と課題(1)

自動車リサイクル産業の中核を担う自動車解体業者は、(公財)自動車リサイクル促進センター(JARC)『自動車リサイクル データBook 2023』によると、約3,300件が稼働中であるが、長期的には減少傾向となっている。その中で近年、移民系企業(ここでは、海外にルーツを持つ企業の総称として用いる)の数・比率が増加していると指摘されている。JARCのwebサイトでは、事業者名簿を確認することができるが、この名簿を確認すると確かに移民系企業と思われるものも多い。地域によっては、半数を超える企業が移民系となっているようである。このことから、本連載(1)で指摘したELV発生台数の減少とともに、この業界は大きな転換点にあると見てよいだろう。ただし、現状を正しく把握し、今後の方向性を展望するためには、「未来への道しるべ」でもある歴史を振り返ることが重要である。

自動車解体業は古くから世界に開かれた産業であった。筆者が知る限りでは、一定量の自動車中古部品が輸出されるようになったのは1960年代半ばのことで、ちょうど中古車輸出の黎明期と合致している。当時は、韓国、台湾、タイといった東アジア・東南アジアのバイヤーが中古部品を買い取りに来ていた。解体業者にとっては、現金決済となるこの取引は国内販売と同じようなものであった。また、初期の輸出においてはスクラップとしての輸出、農機具やボート、船舶用ウインチなど他用途向けの輸出もみられた。

1980年代の段階では、コンテナターミナル整備が進んだことからコンテナ貿易が一般化し、中古部品の輸出量も著しく増加した。解体業者の中には、生産する部品のほとんどが輸出向け、という企業も見られ始めた。ただ、この時代の輸出も引き続きアジア向け中心で、いずれもバイヤーが来訪しての販売であった。1990年代にはいと仕向け地が欧州、オセアニア、アフリカ、南米など世界大に広がるようになる。取引の方法も、海外ディーラーや商社との関係を前提に解体業者が自ら輸出を行ったり、バイヤーを常駐させ一定量の商品販売ルートを確認したりするなど、多様化が進んだ。常駐スタイルはパキスタン人、スリランカ人、バングラデシュ人などが先鞭をつけたとされるが、筆者が現場を見るようになった2000年代後半にはアフリカや中東、ロシアなど様々な国からのバイヤーが常駐することが珍しくなくなった。また、以前の自動車解体業者は、輸出ビジネスはバイヤー次第、どの程度の価格でどこに売られているのか、という情報が乏しかったが、2000年代後半になると、日系企業自らが海外展開を行うことによる部品輸出が本格化した。とはいえ、輸出される中古部品の大半は、バイヤー経由ないしは海外ディーラー向けのものであったと推測され、自動車解体業にとって海外事業者(ディーラー、バイヤー)との関係は、事業の維持・拡大にとって重要な条件であった。

ところで、自動車リサイクル法が施行されたのが2005年であるが、この当時の許可業者名簿をみると、移民系企業とも思われるものは、現在とは比ぶべくもない。自動車解体業の許可を取ることが難しかった、ELVの調達ルートが乏しかった、日系企業との関係で十分であり参入する必然性がなかった、などの事情が考えられる。筆者の認識では移民系企業が急速に増加したのは2010年代後半である。筆者らは以前、海外向け中古部品流通についてまとめたが(『自動車リユースとグローバル市場』(成山堂書店、2017年)、この時点では、輸出ルートには大別して「自社輸出」(基本的に日系企業を想定し、移民系企業は例外的な扱い)と「バイヤーによる輸出」があるとしていた。この「自社輸出」に、移民系企業経由の大きな流れができてきているのが現在である。かつてのバイヤーなどを「オールドカマー」とすると、現在新規参入している移民系企業はいわば「ニューカマー」といえる。ELVが移民系企業を経由すると、部品輸出が促進される方向に働くことから、国内市場への影響があると考えられる一方で、一般論としては部品使用の長期化を促進するという見方もできる。次回第4弾では、現在の移民系企業の展開状況や課題を示したい。



北海学園大学
経済学部教授
浅妻 裕

次号に続く

03

2025年度 日本自動車リサイクル機構 (JAERA)
定時社員総会のご案内

2025年度の「定時社員総会」の開催が決定しましたので、ご案内いたします。

日にち	2025年6月17日(火)
場 所	鉄鋼会館(東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10) ※アクセス: https://www.tekko-kaikan.co.jp/publics/index/207/
時 間	<p>■第1部 定時社員総会: 13:00 ~ 14:00 (12:30 受付開始)</p> <p>■第2部 会員交流会: 14:15 ~ 15:45 →資源回収インセンティブ制度説明会 →ワイヤーハーネス共同出荷事業説明会</p> <p>■懇親会: 16:00~18:00 / 15:30 受付開始</p>

※今年度より対面のみでの開催となります。

社員(支部長)の皆様

社員総会のご案内を5月16日に個別でメールにてお送りしておりました。出欠のご連絡につきましては、6月6日(金)までメールに添付の出欠回答票にてお知らせくださいますようお願いいたします。(万が一、メールが届いていないなどございましたら、機構事務局までお問合せ下さい)

04

自動車リサイクル士 2025年度新規講習会のご案内!!

2025年度の自動車リサイクル士新規講習会の日程・申込スケジュールが決定しました!

新規講習会は新たに今回も前年同様WEBを活用した講習会となります。毎年、早期に定員に達してしまう会場もございますので、受講をご検討されている皆様はどうぞお早めにお申込みください!

申込期間	2025年6月9日(月) ~ 7月18日(金)※当日消印有効
動画配信期間※1	2025年9月1日(月) ~ 11月28日(金) 正午まで
試験日程※2	<p>①札幌会場: 2025年10月 3日(金) 14:00 ~ 15:00 札幌市教育文化会館</p> <p>②東京会場: 2025年10月 8日(水) 14:00 ~ 15:00 赤羽会館</p> <p>③仙台会場: 2025年10月16日(木) 14:00 ~ 15:00 東京エレクトロンホール宮城</p> <p>④名古屋会場: 2025年10月22日(水) 14:00 ~ 15:00 日本特殊陶業市民会館</p> <p>⑤大阪会場: 2025年10月23日(木) 14:00 ~ 15:00 国労大阪会館</p> <p>⑥岡山会場: 2025年10月24日(火) 14:00 ~ 15:00 岡山市勤労者福祉センター</p> <p>⑦福岡会場: 2025年10月31日(金) 14:00 ~ 15:00 福岡県立ももち文化センター</p>
合格発表	2025年12月1日(月) 10:00

※1 動画配信期間→WEB上で講習動画をご視聴いただける期間(全動画をご視聴のうえ受験)

※2 今年度沖縄会場での試験は実施いたしません。

注意! 今年度資格期限を迎える方向けの「更新講習会」は別途ご案内差し上げます。(2026年2月開催予定)

お申込・詳細はこちら ▶ <https://www.elv.or.jp/35-87-0.html>

(リンク先の「2025年度講習会関連情報!」をクリック)

<お問い合わせ先>

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 事務局(担当:京野)

■TEL: 03-3519-5181 ■FAX: 03-3597-5171

■Mail: jæra-homepage@elv.or.jp



2024年度 東京会場試験の様子

05

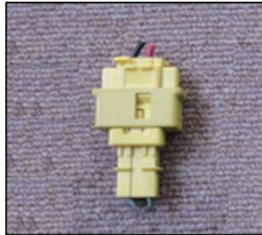
JAERA 会員限定 貴金属類の共同出荷事業のご案内 ～第1回集荷は7月から～

資源循環の推進と会員の皆さまの収益向上を目的とした、2025年度“貴金属類の共同出荷事業”が間もなく開始となります。本事業は JAERA 会員限定での取り組みであり、アサヒプリテック株式会社の協力のもと実施をしております。第1回目の集荷期間は7月より開始の予定ですので、ぜひこの機会にご参加くださいますようお願いいたします。

1. コンピューター基板



2. エアバッグカプラー



3. センサー類



対象品目となる、コンピューター基板やエアバッグカプラー、センサー類（O2センサーなど）には、貴金属が含まれており、比較的回収も容易です。日常の業務の中で無理なく取り組め、効率的な資源回収が可能となっています。また、会員が共同で回収・集荷を行うことで、相場を上回る有利な価格での売却が期待でき、皆様の経済的メリットも大きな取り組みです。

なお、事業の詳細内容や価格条件などは、6月下旬に会員の皆様におのみ、メールにて個別にご案内いたします。資源の有効活用と新たな収益機会の創出に向け、皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

過去の取り組み結果は[こちら](#)

06

JAERA 賛助会員の紹介

アサヒプリテック株式会社（東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー 11階）

アサヒプリテック株式会社は、さまざまな分野から発生する貴金属含有スクラップを回収し、リサイクルしております。金・銀・プラチナ・パラジウムなどを、現代のモノづくりに欠かせない貴金属製品として再生することにより、資源の有効活用と産業の発展に貢献してまいります。この度の共同出荷事業ではコンピュータ基板（ECU）、O2センサー、エアバックカプラーの回収を担っており、それ以外では、触媒を始めとする貴金属含有品を扱っておりますので、是非ご相談ください。



茨城県坂東市に新工場群を建設いたしました。国内最大規模の貴金属のリサイクル工場となり、これまで培った技術に加え、最新の自動化設備で高い生産性と回収率を実現いたします。これにより御取引業者様へこれまで以上のサービスの提供が出来ると考えております。

また、弊社は世界的な貴金属の機関（LBMA、LPPM）が認定する会社の中でTOP数社しか取得していないISO/IEC17025を2024年度に取得しております。これは、試験所や校正機関の技術能力を証明するための国際標準規格です。この認証の取得により弊社の分析技術の信頼性が高まり、国際的な取引における信用も向上させることができます。

07

4月新車販売・使用済自動車発生台数・中古車輸出に係る返還台数

新車販売台数は前年比110.5%、
使用済自動車引取件数、中古車輸出返還台数は前年割れの様相

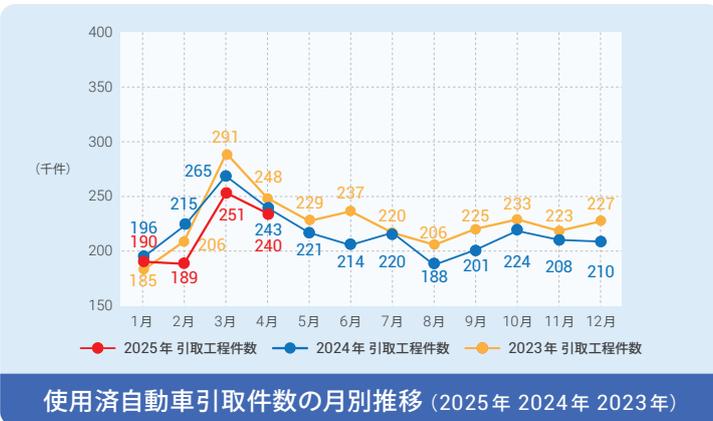
■2025年4月度 新車販売台数 342,878台 (前年同月比110.5%)



年累計	台数(台)	前年比(%)
2025年(4月まで)	1,628,430	113.0
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2025年4月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況

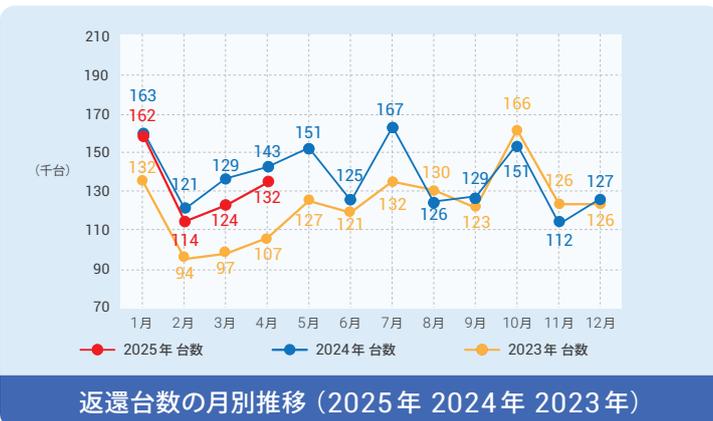


年累計	件数(件)	前年比(%)
2025年(4月まで)	869,182	94.5
2024年	2,607,112	95.5
2023年	2,731,329	98.6
2022年	2,769,122	87.5
2021年	3,165,022	100.8

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

■2025年4月度 中古車輸出に係る返還台数※ 132千台 (前年同月比92.3%)

※中古車の輸出に伴い、預託していたリサイクル料金を返還した台数



年累計	台数(千台)	前年比(%)
2025年(4月まで)	532	95.7
2024年	1,644	111.0
2023年	1,481	115.7
2022年	1,281	95.5
2021年	1,342	107.2

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

08

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

5月第4週（20日）の鉄スクラップ動向



5月20日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	40,000 ~ 41,500	様子見
	南関東	40,000 ~ 41,500	様子見
	浜値	40,000 ~ 41,000	様子見
名古屋		40,000 ~ 41,500	様子見
関西	大阪	41,000 ~ 42,500	軟調
	姫路	41,000 ~ 42,000	軟調

トルコ輸入鉄スクラップ相場が続伸 新規成約米国玉で高値

5月中旬入り前から上昇し、その後も新規成約の高値などを背景に堅調に推移しているトルコの輸入鉄スクラップ相場が、5月第3週後半にかけてさらに続伸した。

5月15日に決まった新規成約では、米国玉HMS1&2(80:20)がCFR347ドルを付けた。これより前の成約では同品種がCFR341.50ドルを付けており、気配値もCFR342~343ドルどころにあったため、概ね4ドルどころの続伸となった。

相場の維持および続伸の背景には、鉄スクラップ在庫が減少しているトルコミルの一部が5月入りから引き合いを強めたことが挙げられる。さらに鉄筋価格が小幅ながら上昇したことも下支え材料だ。5月8日付のトルコ国内の鉄筋価格は中心値が2万5000~5900トルコリラ(工場渡し)で、前週比で100トルコリラの上昇。鉄筋の入札では前月比で550トルコリラ高を提示したミルもある。また輸出向け鉄筋は、5月15日時点で中心値がFOB550~555ドルと、前週同時点のFOB540~545ドルから10ドル上昇した。

関東 需給バランスが均衡したまま5月後半入り

関東市場は需給バランスが均衡したまま5月後半に入った。市中筋は相場に先安警戒感が漂っていたGW前に在庫の出荷を積極化しており、連休明け以降は「手持ち在庫を減らした事業者が多い」(商社筋)という。特に主要品種のH2はシッパーが一定量の調達を続けており、出荷先が分散している。関東地区のH2炉前実勢価格は40,000~41,000円中心、高値41,500円見当。H2浜値は40,000~40,500円中心、高値41,000円見当。

東海 鉄スクラップ相場膠着し様子見横ばい

東海市場の鉄スクラップ市況は4月下旬の続落以降は値動きが見られず、膠着した相場展開が続いている。東海主要電炉が減産を実施し鉄スクラップ需要量が低迷している一方、市中スクラップの発生・荷動きが薄く供給量も低調なため、東海域内の鉄スクラップ需給は概ね均衡しているのが現状だ。このため様子見横ばいの市況推移が続く結果となっている。H2炉前実勢価格は40,000~41,500円中心。

大阪 需要低迷を映し軟調気配で5月下旬入り

大阪地区の鉄スクラップ市況は軟地合い。電炉筋によっては入荷抑制に向けた動きも見られることにより、軟調気配のまま5月下旬を迎えている。電炉は概ねスクラップ在庫余力を抱え、使用量以上の調達を急ぐ必要がないため「今の需給面からすれば、東鉄に関係なく、下落圧力が残っている。高値メーカーを中心に下げられる展開にあるのでは」(商社筋)と慎重な見方が多い。H2炉前実勢価格は、41,000~42,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、5月20日午後時点のもの)

09 ▶ お知らせ — JAERA 事務局より —

一般社団法人日本自動車工業会

BEV 運搬及び電池取外しの実態把握アンケートへのご協力をお願いします!

このたび、一般社団法人日本自動車工業会（JAMA）では、駆動用電池（アンダーフロア型電池パック）を搭載する車両（BEV、PHEV等）の運搬および電池の取外し方法に関する実態調査を実施しております。

本アンケートは、現場での実際の取扱い方法を把握し、今後のより安心・安全な作業手順の検討・整備に役立てることを目的としております。ご多忙の折とは存じますが、下記のアンケートへのご回答にご協力いただけますようお願い申し上げます。

こちらのQRコードからも回答できます▶

日本自動車工業会 電池リサイクル分科会
BEV運搬及び電池取外しの実態把握アンケート



■回答期限：2025年6月20日（金）まで ■回答は[こちら](#)をクリック（WEB回答）

※BEV・・・Battery Electric Vehicle：ガソリンを使わず電気のみを使って走る車

編集後記



JAERAニュースレターの紙面リニューアルから早一年が過ぎました。

リニューアルに伴い、毎号表紙には全国の「若い力」として会員企業の優秀な若手社員を紹介しています。毎回紹介された社員さんを見ていると、この業界もこの先まんざら捨てたものではないなと感じます。

ある求人情報メディアが、主力労働者に「仕事に必要なものに関する」調査をしたところ、仕事に一番必要なものは「やりがい」だったそうです。理由は自ずと「モチベーションが上がる」からだそうです。

一方、その「やりがい」が全く感じていない現実もあるようで、「頑張っても給与や役職が上がらない」、「同じ仕事を何年も繰り返している」など、望んでいることと現実のギャップはかなり大きいようです。

業界や企業の持続的な成長には、従業員の「やりがい」が大事な要素の一つであると思われます。疲弊しつつある我々の業界ではありますが、若い人たちが力を発揮できる職場環境作りをし、再度、前途洋々なる自動車リサイクル業界にしていきたいものです。

広報部会長 田村 幸男

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

6 月の主な行事予定

- 3日(火) | 第1回RT部会(対面)
- 9日(月) | 第3回広報部会(対面)
- 17日(火) | 2025年度日本自動車リサイクル機構 定時社員総会・懇親会
| 第20回業界景況調査(～6月30日まで)
- 18日(水) | 第1回自動車リサイクル推進会議(対面)
- 19日(木) | J-FAR(資源回収インセンティブ実装事業) 定例会(WEB)
- 24日(火) | J-FAR(異常電池適正処理) 定例会(対面・WEB)

